

# 明石市サッカー協会 創立40周年

40th

30th

20th

10th

## 目 次

ご挨拶	明石市サッカー協会会長 溝口 薫 ……………	1
祝辞	兵庫県サッカー協会会長 稲垣 嗣夫 ……………	2
	明石市体育協会会長 平野 武彦 ……………	3
	明石市長 北口 寛人 ……………	4
	明石市教育長 公家 裕 ……………	5
	神戸新聞社明石総局長 蓑田 俊輔 ……………	6
活動報告	1種(社会人)委員会 ……………	7
	2種(高校)委員会 ……………	9
	3種(中学)委員会 ……………	10
	4種(少年)委員会 ……………	12
	審判委員会 ……………	16
	技術委員会 ……………	18
	フットサル委員会 ……………	19
	規律・フェアプレー委員会 ……………	20
	広報委員会 ……………	22
登録チーム	……………	23
協会規約	……………	28
賛助広告	……………	30
編集後記	……………	32



## 明石市サッカー協会 創立40周年によせて

明石市サッカー協会 会長 溝口 薫

明石市サッカー協会創立40周年を迎えるにあたり、一言ご挨拶を述べさせていただきます。

昭和45年(1970年)に明石市サッカー協会が設立されてから早いもので40年が経過しました。10年前に30周年記念行事を実施したのが、ついこの間のように思われます。この10年間だけでも明石市サッカー協会にとりまして大きな変化がありました。何と云いまでも、会長を務めて頂きました堂本晋三氏が平成20年2月1日にお亡くなりになられたことです。明石市サッカー協会の顔として、36年間という長期にわたり会長という重責を果たして来られました。サッカー大会の会長挨拶では、いつも元気なお姿で「トライアングル・アイコンタクト・ボールコントロール」を口癖のように話されていたことを思い出します。私が、堂本会長の後任を務めさせていただき3年目を迎えました。改めて堂本会長の偉大さを感じています。堂本会長ほどの力はありませんが、微力ながら明石市サッカー協会のために少しでもお役に立てるように頑張っていきたいと決意しています。

明石市サッカー協会の活動を推進していく中心として、常任理事会があります。その構成メンバーも県サッカー協会の組織の改編にあわせて必要な役職を増やし、担当者も若い者へ少しずつ入れ替わるなど組織の充実に努めています。また、それぞれの委員会でも定例会を設定するなど、情報交換をはじめ事業計画・事業推進について検討し、活動が活発にスムーズに運営できるように心がけています。おかげでどの委員会も活動内容が充実してきています。

現在、明石市サッカー協会が一番の悩み事は、自由に使用できるグラウンドが少ないことです。特に社会人の試合会場の確保が難しく困っています。明石市には、市の公共施設としてサッカー競技に使用できるグラウンドが明石市海浜公園多目的グラウンドしかありません。まして、芝生のグラウンドは一つもない状況です。市内のサッカー関係者の一番の願いは、市内に芝生グラウンドが建設されることです。明石市サッカー協会では、この願いをかなえるため明石市や他の団体に働きかけ「芝生グラウンド建設」という夢の実現に努めているところです。

40周年を迎えるにあたりまして、これまでご支援・ご協力をいただきました各団体の皆様にお礼を申し上げますとともに、今後とも、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



## 明石市サッカー協会 創立40周年を祝す

兵庫県サッカー協会 会長 稲垣 嗣 夫

明石市サッカー協会設立には本年めでたく、創立40周年を迎えられましたことにまず心からお祝いを申し上げます。

明石市では、昭和40年代に中学サッカーが急激に高まりはじめ、そのサッカー熱の高まりを背景に、昭和45年4月に明石市サッカー協会が設立されました。以来、関係の皆様のご熱心なご尽力により、年ごとに発展、充実され、少年、高校、社会人へとサッカー熱はますます高まり、現在の隆盛を迎えられていることは、誠に喜ばしい限りであります。

今年は南アフリカでのワールドカップイヤーということで、連日の熱戦に夢中になり、4年に一度のサッカーの祭典を楽しみました。我が日本代表チームは、2勝1敗で予選リーグを突破、決勝トーナメントに進出し、世界中をあっと言わせました。

兵庫県サッカー協会では、兵庫国体以降の目標として「2009の約束」を掲げ、各指導者が“兵庫に生まれ育つ個を今まで以上に高いレベルへと育成し、ひいてはチームの強化・日本を代表する個の育成”を意識し、指導の現場に立ってほしいと願っています。また、活動拠点としての兵庫フットボールセンターの整備、キッズ年代で県下の多くの子どもたちがスポーツ・サッカーに良い出会いができるようなキッズ年代プログラムの充実、サッカーファミリー拡大へ向けてのプロジェクトなどにも取り組んでいるところでございます。芝のグラウンドで幼児から高齢者までが安全にプレーを楽しんでいただける環境づくりに努力いたします。また、兵庫県では豊かなスポーツライフを実現し、スポーツを通じた地域コミュニティづくりを進めるため、全県下に地域スポーツクラブが設置されました。サッカーがこのクラブ育成の先導を担って行ければと考えています。

今後とも、明石市サッカー協会の皆様が、豊かな経験と蓄積を生かし、新たな目標に向けて果敢にチャレンジされることを期待しますとともに、ますますの御発展と御健勝を心からお祈り申し上げます。



## 創立40周年を祝して

明石市体育協会 会長 平野 武彦

この度、明石市サッカー協会が豊かな年輪を刻みながら創立40周年を迎えられましたことを、明石市体育協会を代表して心よりお慶び申し上げます。

また、記念事業の一環として40年の貴重な歩みを後世に伝えていくことは大変大切なことであり、誠に意義深いことと存じます。

貴協会におかれましては、40年の長きにわたり歴代の会長様を中心に会員の皆様が一致協力して、強力な組織を確立され、多くの人材を養ってこられ、当体育協会発展に大きく貢献されましたことに深く感謝しております。

また、協会運営充実に力を注がれ、サッカー教室の開催、あるいは数多くの大会を開催され、サッカーを通して市民のスポーツライフの充実、競技力の向上、青少年の健全育成等、スポーツ振興に大きく寄与されておられます。これもひとえに各員各位の熱心なご努力のおかげと、皆様方のご精進に対して深く敬意と感謝を表する次第でございます。

40周年の節目を次のステップとして、貴協会がより一層充実・発展されますことをご期待いたしますと共に、たくましい身体と豊かな心をもった若者を育てていただくことをお願いいたします。お祝いの挨拶といたします。





## お祝いのことば

明石市長 北 口 寛 人

このたび、明石市サッカー協会がめでたく創立40周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴協会におかれましては、40年の長きにわたり、サッカーを通じた市民の健康づくりのみならず、人と人との豊かな交流といった心の通いあう温かい地域コミュニティづくりを図る充実した活動を展開してこられました。これも歴代会長をはじめとする役員、会員の皆様のご尽力の賜物と深く敬意を表しますとともに、すべての方々が、いつまでも健康で、心豊かに暮らすことができる「ふるさと明石」のまちづくりに多大なるご支援を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、サッカーをはじめとするスポーツは、身体を動かすことにより体力の向上、健康増進をもたらすだけでなく、特にチームワークを大切にするサッカーは、チームとしての連携、目標の共有、心の一体感などが求められ、心身の両面にわたり鍛錬できるなど、大変意義深いものがございます。

また、苦しみも喜びも分かち合える仲間を持つことは、選手の皆さんの人生において貴重な財産となるものと存じます。

貴協会を運営される関係者の皆様には、今後とも、サッカーを通じた青少年の健全育成や地域振興にご尽力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本市におきましても、今後もより一層、市民スポーツの振興を通じた健康で活力のあふれるまちづくりに、積極的に取り組んでまいる所存でございますので、今後とも変わらぬ力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、明石市サッカー協会が、これまでの輝かしい伝統を礎とされ、ますます発展されますよう祈念いたしますとともに、皆様の末永いご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます、お祝いのことばといたします。



## 祝 辞

明石市教育長 公 家 裕

明石市サッカー協会が、豊かな年輪を重ねながら創立40周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

平素よりサッカー競技を通し、市民スポーツの振興や心豊かな人づくりに格別のご尽力を賜っておりますことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

貴協会の皆様には40年の永きにわたり明石市総合体育大会をはじめ、小学生から大人まで様々な年代を対象とした大会を開催され、サッカーの普及はもとより、競技の向上にも努められ、いくつもの輝かしい功績を残してこられました。これはひとえに、歴代の会長様をはじめ役員の方々の情熱とたゆまぬ努力の賜物と深く敬意を表する次第でございます。

サッカーは世界中で非常に高い人気を誇り、競技人口が最も多いスポーツのひとつとして、あらゆる世代の方々に親しまれております。市内でも公園などに出かけますと、小さなお子さんがご家族の方とサッカーボールを蹴る微笑ましい姿をよく見かけます。また、小学校、中学校、高等学校でもサッカーに取り組む子ども達が多く、とても活発な活動を続けていますし、たくさんの社会人チームも活躍されています。

そして、本年は「FIFAワールドカップ」が南アフリカで開催され、日本代表チームの活躍に日本中が熱気に包まれました。時差の関係があり深夜の時間帯での試合が多かったのですが、多くの方が眠い目をこすりながらテレビ観戦をしたことがうかがえました。このように、サッカーは「する」スポーツとしても、「観る」スポーツとしても楽しまれています。性別・世代を問わず誰もが楽しめるサッカーは今後さらなる普及、発展をしていくものと考えられます。

そのような中で貴協会にはトップレベルの選手の育成を推進していくとともに、運動を楽しむ体力づくりに役立てる生涯スポーツとしてのサッカーの普及にも、引き続きご尽力をいただきますようお願い申し上げます。また、あらゆる面において明石市におけるサッカー競技の先導的な役割を担っていかれますことをご期待申し上げます。

終わりにになりましたが、明石市サッカー協会がこれまでの40年の歩みを礎に、より一層のご発展を心からお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。





## お祝いのことば

神戸新聞社 明石総局長 蓑田 俊 輔

明石市サッカー協会の創立40周年おめでとうございます。協会のここまでの順調な歩み  
とご発展を心よりお慶び申し上げますとともに、日々協会とサッカーを愛する皆さまのため  
にご尽力されている役員諸兄、さらに市内各地で協会を支えておられる会員の皆様に心より  
の敬意を表するものです。

40年と一口に申しますが平均的な生涯でいえばほぼ半生、その間には並々ならぬご苦労  
があったことと拝察いたします。にもかかわらず常に前向きにサッカーの振興に取り組んで  
おられる皆様の姿勢に心打たれるものを覚えずにはられません。

振り返りますと私のサッカーへの興味の原点は、1968年のメキシコ五輪でありましょ  
う。釜本邦茂氏が7得点2アシスト、全得点に絡むという活躍で銅メダルに輝いたできごと  
は未だに色褪せない鮮烈な記憶です。以前の社会人サッカーの天皇杯なども覚えてはいます  
が、釜本氏の躍動とメダル獲得という歴史的な偉業がそうさせているようです。

サッカー界がその後、1993年のJリーグ（日本プロサッカーリーグ）の誕生で飛躍的  
に国民の興味を集めるようになったのは周知の通りです。野球の独壇場という感の強かった  
少年たちのスポーツ選択にもサッカーが大きなウェイトを占めるようになりました。

このようなサッカーの隆盛を担ったのは1970年に発足した明石協会など地道にサッカ  
ーを支えてこられた皆様の力だと断言することができます。技術的な指導はもちろんのこと、  
大会の運営や他地域との交流など、時折お招きいただく催しの中で常に拝見しております。  
併せて当社の後援事業などでのお力添えに深く感謝いたしております。今後もできる限りの  
応援をさせていただきます。ご協力をお願いする次第です。

終わりにになりましたが、協会のますますのご発展と、会員のご活躍を祈念し、お祝いの言  
葉とさせていただきます。



# 1種(社会人)委員会

委員長 三 阪 公 郎

Jリーグ開幕後ピーク時には30チームを超えていた明石市社会人リーグも、ここ10年間の社会情勢の悪化に伴い（いわゆる失われた10年）2010年度には13チームに減ってしまいました。

使用グラウンドも、2001年には、二見海浜公園・明石公園球技場・富士通明石工場・明石高専等が使用可能であったのですが、諸般の事情により二見海浜公園以外が使用不可能となったため、現在では1箇所のみグラウンドでリーグ戦を運営しています。

そのため、他協会に比べると試合数の面では非常に不利となっていますが、各チームの努力によりレベル低下に歯止めがかかっていると考えます。

## 【年度別登録チーム数と使用グラウンド】

年 度	チ ャ ム 数	使 用 グ ラ ン ド
2001年	18	二見海浜、富士通、明石高専、明石公園競輪場、稲美中央
2002年		
2003年	14	二見海浜、稲美スポーツセンター 明石高専
2004年	17	二見海浜、稲美スポーツセンター 明石高専
2005年	17	二見海浜、明石高専
2006年	16	二見海浜、明石高専
2007年	16	二見海浜、明石高専
2008年	16	二見海浜
2009年	15	二見海浜
2010年	13	二見海浜

県レベルでは、2005年に全国社会人サッカー大会（国体リハーサル大会）、2006年には兵庫国体が開催されました。

一部では、大変盛り上がりましたが、明石ではサッカー競技が無かったためあまり盛り上がりは無かったようです。

さて、明石はもちろん各都市リーグチームの当面の目標は、県リーグ昇格だと思います。

1997年に「明石FC」が県リーグに昇格して以来、明石市協会からは新規昇格したチームがありませんでしたが、喜ばしいことに「平成22年度都市リーグ決勝大会」において、明石市社会人リーグ代表の「FCLADYGO+F(A)」が見事優勝し、5年越しの夢を果たしました。

これにより平成23年度の県リーグ2部では「明石FC」と「FCLADYGO+F(A)」のダービーマッチが実現することになります。これに刺激を受け、各チームの一層のレベルアップと県リーグ昇格を期待しています。

また、毎年行われる県内13都市協会対抗の「社会人都市対抗戦」でも、明石は一回戦敗退が続いており、まずは一勝、次に優勝を目指したいと思います。

幸か不幸か、明石には「社会人都市対抗戦」を開催可能な芝生グラウンドが無い（きっと不幸なのでしょうが）一度も主催していません。将来立派なグラウンドが出来たときには、この大会を主催し、優勝できるようなレベルの社会人リーグの運営を目指したいと思います。

最後に、社会人になってからもサッカーを20年・30年と続けている方が大勢います。40歳になれば40歳なりのサッカー、50歳になれば50歳なりのサッカー、60歳になれば60歳なりのサッカーがあると思います。

どうか皆様がこれからも末永く明石でサッカーを続けてくださるよう希望しています。



「平成22年度都市リーグ決勝大会」優勝の「FCLADYGO+F(A)」イレブン+α

(平成22年12月5日 撮影)



## 2種(高校)委員会

委員長 田村孝次

2種の活動の多くは、高体連や県協会・東播協会主催の試合になります。高校総体と選手権以外に、日本サッカー協会が数年前から掲げる「リーグ戦文化の醸成」により、長期に渡るリーグ戦を義務付けられています。このため、各協会が主催し、全国リーグを頂点とする、プリンスリーグ関西・兵庫県トップリーグ・東播リーグとピラミッド式のリーグが長期にまたがって行われています。そのため、明石市サッカー協会主催の試合は、6月のプレジデンシャル杯と、7月に開催される東播1年生大会の明石地区代表決定戦の2つのみとなっています。市内の大会は、少年・中学時代のサッカー仲間が、違う高校のメンバーとして顔を合わせるまたとない機会なので、明石市協会主催の大会をもっと増やすことができればいいのですが、スケジュール的に難しいのが現状です。

リーグにおいては、明石南高校がプリンスリーグ関西において、一時期活躍しました。現在、兵庫県トップリーグにおいて明石城西高校と明石南高校が健闘中です。県の高体連公式戦（総体、選手権）においては、明石城西高校と明石南高校が県の上位をうかがっています。他の6校も着実に自力をつけてきており、県大会で活躍するチームが増え、全体的なレベルは上がってきています。しかし、残念ながら県大会で優勝するようなチームはなかなか出てきていません。将来、兵庫県を代表して全国で活躍するチームが明石市から出てくることを期待しています。

また、各チームでの大会とは別に、2種の活動として技術委員会や指導者の協力のもとに定期的にトレセン活動を行っています。現在は、月に1回程度の活動ですが、市内の各チームの選手がレベルアップに励んでいます。ただ、トレセン活動を行うことができる公営の芝生のグラウンドが今のところは明石にはなく、高校のグラウンドを借りて活動しているのが現状です。

トレセン活動の集大成としての大会には、1月と7月に開催される兵庫県民大会サッカー競技があります。3部のリーグ制で、13都市協会トレセンの対抗の大会です。明石トレセンは、1部の下位と2部の上位を行き来しています。今後は、トレセン活動を更に充実させ、県民大会において1部の上位に定着できるよう頑張ります。



## 3種(中学)委員会

委員長 米村 貴之

30周年以後の10年間、3種委員会でも大きな変化がありました。一つは中体連所属以外のチームの参入です。クラブチームとして、2001年度からリベルタ明石FC、2006年度からはFCエスポルトが参加することになりました。中体連所属のチームでも、兵庫県立明石学園（市協会のみ）が参加しました。30周年の時点では12チームだった3種委員会は、10年間で3チームが増え15チームとなりました（県登録14チーム）。

時代の流れに伴い、大会も様変わりしました。試合の経験を多くすることなどを目的に、兵庫県をはじめサッカー協会全体としてリーグ戦が奨励され、明石市でもリーグ戦を行うようになりました。そのため、以前まで行われていた市民大会はなくなり、協会の大会は①冬から春にかけてのリーグ戦（U-15）、②夏の明石ロイヤルライオンズカップ（U-15、U-14）、③冬の県選手権予選（U-13）となりました（中体連の総体は除く）。

また、審判部の講習会活動や技術部のトレセン活動など、各部で精力的に取り組んでいます。以下に、ここ数年の試合結果および諸活動について掲載しておきます。

### 【明石3種リーグ】（2009年1月開始）

[2008年～2009年度]（A・Bリーグともに上下関係はなし）

Aリーグ：①衣川 ②望海 ③大久保 ④野々池

Bリーグ：①大蔵 ②大久保北 ③江井島 ④リベルタ

[2009年～2010年度]（A・Bリーグともに上下関係はなし）

Aリーグ：①衣川 ②大蔵 ③大久保北 ④大久保

Bリーグ：①魚住 ②リベルタ ③野々池 ④望海

### 【明石ロイヤルライオンズカップ】※3位決定戦はなし

[2007年度（第20回）]

シニアの部：①リベルタ ②大久保 ③野々池 ④衣川

ジュニアの部：①望海 ②野々池 ③衣川 ④大蔵

[2008年度（第21回）]

シニアの部：①望海 ②リベルタ ③朝霧 ④エスポルト

ジュニアの部：①大久保北 ②衣川 ③リベルタ ④大蔵



[2009年度(第22回)]

シニアの部 : ①衣川 ②江井島 ③野々池 ③大久保北

ジュニアの部 : ①衣川 ②大久保北 ③大蔵 ③野々池

[2010年度(第23回)]

シニアの部 : ①衣川 ②魚住 ③リベルタ ③エスポルト

ジュニアの部 : ①望海 ②大蔵 ③魚住 ③魚住東

#### 【県選手権予選(U-13)】

2007年度 : ①衣川 ②大久保北 ③望海 ③大久保

2008年度 : ①大蔵 ②エスポルト ③望海 ③魚住

2009年度 : ①野々池 ②望海 ③衣川 ③魚住東

#### 【明石招待サッカーフェスティバル】

昭和61年(1986年)より、明石のサッカーのレベルアップを目的として始まった大会で、県内、県外から様々なチームを招待しています。この大会もこの10年で変遷をたどり、招待チームもずいぶんと変わりました。また、明石市協会の参加チームも、市民大会の優勝チームを参加させたり、1年生の選抜チームを参加させたりするなど、色々と試行錯誤を続けています。今後も明石のレベルアップのために、たくさんのチームを招待し、試合をしていきたいと思っています。

#### 【生徒審判講習会】

審判部の活動として、1年生を対象に各チームでのルールの徹底と審判員のすそ野を広げる目的で、審判講習会を行っています。県・市協会の協力のもと、Jr4級の資格を取得させ、その後も何度かの講習会を持ちレベルアップを目指しています。それにより、更に経験を積み、将来審判員として活動したいと考える選手も出てきています。

#### 【トレセン活動】

U-15、U-13の大会をはじめとして、様々な形で活動をしています。以前は大会に向けての選抜の編成を中心に行っていましたが、近年は年間を通してトレセンの活動ができるように定期的に取り組んでいます。トレセン活動での経験をチームに還元し、各チームの更なる強化ができればと思っています。

#### 【今後に向けて】

以上のような活動の中、この10年間、いくつかのチームが全国大会(中体連大会)、県大会に出場し、好成績を取っています。中学校のチームが中心のため、学級数の減少に伴い部員数もずいぶん減っているチームもあります。また、他市協会のクラブチームに所属する選手も増えています。【明石の選手は明石で育て、大きく羽ばたいて欲しい】と思います。

我々の活動を通じ、サッカーの楽しさ、おもしろさを中学生年代の生徒たちにもっともって伝えていきたいと思っています。それにより、明石のサッカーがより活発に、より楽しく、よりエキサイティングになっていくことを願います。

## 4種(少年)委員会

委員長 堂本昌稔

4種(少年)委員会として、30周年以後(10年間)の活動の足跡を振り返っていきます。

**<登録チームの推移>** ※ 登録人数は、680人から770人の間で推移しています。

1999年度(22チーム)	鳥羽FC、明石少年FC、明石FC、江井島イレブン、 やまてSC、貴崎SC、高丘東SC、高丘西SC、 林少年SC、錦浦SC、沢池SC、和坂SC、大久保SC、 王子SC、明石朝鮮初級学校、 藤江KSC、FC谷八木、花園FC、人丸FC、錦が丘SC、 明石YMCAFC、魚住UFC
2000年度(23チーム)	廃部1(明石朝鮮初級学校) 新設2(二見西FC、エスペランサFC)
2001年度(22チーム)	統合1(高丘SC:高丘東SC+高丘西SC)
2004年度(23チーム)	新設1(ラウロFC)
2005年度(24チーム)	新設1(清水SC)
2008年度(25チーム)	新設1(二見北SC)
2009年度(24チーム)	廃部2(明石YMCAFC、ラウロFC) 新設1(中崎MB)
2010年度(24チーム)	

### 1. 子ども・指導者のための4種委員会

4種委員会を定例に開催しています(年間約8回)。毎回子どもたちを中心に据えて、熱い議論が展開されています。4種委員会の中に、総務部・技術部・審判部・フットサル部・キッズ部を立ち上げ、全体会議終了後(時間があれば)、各部会の時間を設定しています。各チームの指導者やコーチは、いずれかの部会に入って、得意の分野で力を発揮しています。また、定期的(年間2回)に4種懇親会を開催し、指導者間の情報交換を積極的に行っています。そうすることで、指導者どうしの関係が深まり、大会運営をする際にも協力体制がとりやすくなっています。

### 2. 積極的な活動

積極的に県大会の主管を希望し、運営に当たってきました。この10年間に4つの県大会(2001年度:兵庫県少年サッカー大会、2005年度:関西少年サッカー5年生大会兵庫県予選、2007年度:全日本少年サッカー大会兵庫県予選、2008年度:兵庫県少年サッカー大会)の主管をしました。運営することは、苦勞もありますが、選手にとっては県大会出場枠が1つ増え、掛けがえのない経験が多くできるようになりました。また、指導者にとっても、県大会出場チームの試合前のアップ・試合・試合後のダウンの様子などを間近に観ることができて、学ぶことも多くありよい刺激となりました。結果として、4種委員会としての結束力が強まりました。



### 3. 他団体との連携

明石市をはじめ、明石ボーイズ、横山製薬、シンノウ等、地元明石の団体（企業）と連携し、協力を頂いて、ボーイズカップ（2005年度～2008年度）、イボコロリカップ（2009年度～）、シンノウカップ（2010年度～）等の大会や講習会を実施しています。明石市からは、2006年度より年間300枚から600枚のヴィッセル神戸観戦チケットを無料配布していただいています（各希望チームに調整分担）。また、明石市主催のヴィッセル神戸サッカークリニック（5年生を対象）も年間2回実施しています。さらに、今年度は「ヴィッセル神戸 in 明石」が明石市の協力のもとで開催され、サッカー教室・親子サッカー・トップチームの公開練習および紅白戦の観戦会等多くの催しがありました。子どもたちは、午前中プロのコーチから指導を受けて、午後からはトップ選手の技術や動きを間近に観ることができました。子どもたちにとっても私たち指導者にとっても大変有意義な一日となりました。

明石市をはじめ、それぞれの団体（企業）には、明石の少年サッカー発展のためにスポンサーとして、また支援団体として支えていただいていることに感謝しています。

### 4. 指導者研修会

指導者は自分の今までのサッカー経験だけで、子どもたちを教えることはできません。私たち（4種）の預かっている子どもたちは“ゴールデンエイジ”と呼ばれている年代です。私たち指導者は、個人としても4種委員会としても絶えず研修を積み、指導力を高めていかななくてはなりません。そのため、指導者講習会を計画的に開催してきました。今年度は、明石市協会主催で40周年記念行事として、足立高浩氏（2008年ユニバーシアード日本代表GKコーチ）と天野泰男氏（大阪桐蔭高等学校女子サッカー部監督）を講師として招いて、それぞれフィールドプレーヤーとゴールキーパーの実技講習会と講演会を開催しました。

### 5. 技術講習会（子ども向け）

子どもたちの技術力向上のため、技術講習会を開催してきました。明石市との連携によって、毎年2回（各チーム1回選択）、5年生を対象に「ヴィッセル神戸サッカークリニック」を開催しています。テーマは「パスを受けるときの体の向き」など、子どもたちの実態に合わせて決めています。指導に当たるのは、ヴィッセル神戸の元選手などプロのコーチです。子どもたちは目を輝かせながら講習を受けています。また、子どもたちはもとより指導者にとってもいい刺激になっています。

### 6. 8人制の導入

2008年度より、リーグ戦（前期・後期）を8人制の大会にしました。勝ち負けにこだわらないで、子どもたちの育成を目的として行っています。15分ハーフで、可能な限り総入れ替えの試合を行い、多くの子どもたちに出場の機会を確保するようにしています。11人制と同じピッチで試合をするため、各個人の運動量も自然と多くなり、スペースも増えるため、パスや動く方向などの判断力が養えます。各チームの監督・コーチには、子どもたちの自主性を伸ばすために、できるだけコーチングをしないよう呼びかけています。自分で考え、判断できる子どもたちに育ってくれることを期待しています。

### 7. 審判技術の向上

審判技術の向上のため、審判講習会を実施しています。また、各大会においても試合の後、本部待

機のインストラクターから適時アドバイスを受けています。審判技術の向上によって、子どもたちは安心してプレーできるようになり、そのことが子どもたちの技術力を伸ばすことにもつながると考えています。

## 8. フットサルの活動

2004年度までは、バーモンドカップ県大会出場チームを決めるために、明石予選大会を開催してきました。この大会（1日開催）に出場するためにはフットサル登録が必要で、費用面の負担が大きく参加チーム数が少ないのが課題でした。そこで、子どもたちがフットサルの経験を少しでも多くできるように、2005年度にフットサルリーグを立ち上げました。また、2010年度から、わんぱく広場でシンノウカップ（フットサル大会）を実施し、この大会はフットサル登録をしていなくても参加ができるようにしています。リーグ戦の導入やシンノウカップの開催によって、フットサルの普及が急速に広まり、11人制の試合内容にも良い変化が表れてきています。フットサルは、ピッチが狭いためにスピーディーに展開され、攻守の切り替えが早くなります。また、少人数で行うため、一人当たりのボールに触れる回数も多くなります。相手に体を預けながら足の裏を使ってのボールキープや判断を伴うパスワークなど、魅力的なプレーがいっぱいで、フットサルを通して身につけていくことがたくさんあります。

## 9. キッズの活動

心身・特に神経系の発育発達が目覚ましい幼児期や小学生低学年において、体を動かすことの爽快さやスポーツの素晴らしさを体感させ、サッカーの普及・浸透を図ることを目的として行っています。2009年度よりキッズリーダー講習会を明石市協会単独で開催するようになりました。また、この2年間、市内4種チームを基盤として、U-8・U-6キッズによるフェスティバルを開催してきました。2010年度は、キッズ合計121人の参加者がありました。市内チームのコーチにスタッフとして協力を依頼しながら、少しずつキッズの活動を広めています。今後は、キッズ委員会としてさらに組織化した活動をする中で、4種チーム以外のU-6キッズを対象にしたフェスティバルの開催もしていきたいと思えます。そのためには、幼稚園や保育所、そして市の広報等とも連携していく必要があります。

### <2010年度 4種年間行事>

- 4月 市長杯争奪戦・前期リーグ戦開幕
- 5月 全日本少年サッカー大会明石地区予選・プレジデンシャルカップ4種予選
- 6月 明石市招待5年生大会・フットサルリーグ開幕
- 8月 シンノウカップ・前期リーグ戦決勝大会
- 9月 堂本杯兼兵庫県少年サッカー大会明石地区予選・Fバーモンドカップ明石地区予選  
後期リーグ戦開幕
- 10月 キッズサッカーフェスティバル・イボコロリカップ（※兵庫サッカーデー）
- 11月 5年生大会
- 1月 フットサルリーグ決勝大会・子ども会大会・後期リーグ戦決勝大会
- 2月 クラブ大会

※ その他、トレセン活動・技術講習会・審判講習会・懇親会など多数の行事があります。



<2001年度 ~ 2010年度 4種 明石予選記録>

\*全日本少年サッカー大会 (U-12) および兵庫県少年サッカー大会 (U-10・U-12) の上位3チームのみ記載しています。

大会名 年度・順位	全日本少年サッカー 大会明石予選 (6月上旬実施)	兵庫県少年サッカー 大会明石予選 (U10) (9月中旬実施)	兵庫県少年サッカー 大会明石予選 (U12) (9月中旬実施)
'01年 優勝 2位 3位	YMCAFC 江井島イレブン 鳥羽FC	鳥羽FC 江井島イレブン 明石FC	YMCAFC 鳥羽FC 明石FC
02年 優勝 2位 3位	やまてSC 江井島イレブン YMCAFC	やまてSC 明石FC エスペランサFC	やまてSC 錦浦SC 江井島イレブン
03年 優勝 2位 3位	明石FC 江井島イレブン 林SC	明石FC 鳥羽FC エスペランサFC	林SC 明石FC 江井島イレブン
04年 優勝 2位 3位	やまてSC 藤江KSC 江井島イレブン	和坂SC 江井島イレブン やまてSC	エスペランサFC やまてSC 林SC
'05年 優勝 2位 3位	江井島イレブン エスペランサFC やまてSC	江井島イレブン 和坂SC 人丸FC	エスペランサFC 明石FC 江井島イレブン
'06年 優勝 2位 3位	和坂SC 江井島イレブン 沢池SC	江井島イレブン 人丸FC 和坂SC	江井島イレブン 和坂SC やまてSC
'07年 優勝 2位 3位	やまてSC 江井島イレブン FC谷八木	エスペランサFC 人丸FC 沢池SC	FC谷八木 人丸FC 和坂SC
'08年 優勝 2位 3位	江井島イレブン 人丸FC 和坂SC	人丸FC 江井島イレブン 錦浦SC	エスペランサFC 江井島イレブン 和坂SC
'09年 優勝 2位 3位	エスペランサFC 江井島イレブン 明石FC	沢池SC エスペランサFC 明石FC	人丸FC エスペランサFC 江井島イレブン
'10年 優勝 2位 3位	江井島イレブン 藤江KSC エスペランサFC	エスペランサFC 江井島イレブン 二見北SC	人丸FC 沢池SC やまてSC

## 審判委員会

委員長 神田 哲也

この10年を振り返ってみると2002年日韓W杯の開催、2006年にはのじぎく兵庫国体が開催されたことに加え、兵庫をホームタウンとする国内最高レベルのチーム（Jリーグ・なでしこリーグ・Fリーグ）が私たちの身近な存在となり、サッカー・フットサルへの関心が高まりました。その環境変化の恩恵を受け、4級審判員につきましても年々登録人数も増えてきています。（右表参照）

新規・更新講習会受講者数

年度	人数
2009	305
2010	349

2001年以降、サッカーにつきまちは競技規則の改正や通達、新しい解釈等がいくつか示されましたが、その中でもとりわけ大きなポイントとなったのが、【得点の機会を増やす】という意味で2004年にオフサイドの新解釈（オフサイドポジションにいてもボールに干渉するまたはボールに触れないと原則反則として適用しない）が示されたことでした。

従来の瞬時の判断・判定の他にWait & See（待つ・見る）も重要となり、更に審判スキルが求められることから主審・副審・4審の連携をこれまで以上に深めていくことが必要不可欠となっています。

また、フットサルでは2006年～2010年にかけて、よりスピーディーなゲームが展開されるよう競技規則が改正されました。

このように時代の変化に対応できるよう上部団体との連携を密にし、その方針・指導・通達に沿って審判委員会では下記の活動を推進してきました。

### 1. 委員会の開催

月に一度の割合で委員会を開催し、各活動の開催の検討や決定、県協会や各種からの活動報告や連絡を行い、情報交換・伝達に努めました。また、各担当の役割分担の明確化、委員会規約・規定の立案・決定・整備など会議を通じて組織強化を図りました。

### 2. 研修活動

#### ◇ 4級審判員の新規／更新講習会の開催

- ・ 実例ある動画を多く用いて審判員へ競技規則の理解度をより深めるよう努めました。
- ・ 審判員の心得として、リスペクト（感謝・尊敬）やコモンセンス（常識・良識）についても説明・指導しました。



講習会の様子とリスペクトワッペン

新しい内容としては、2007年にパ

ソコンを利用して更新講習会と同等の研修を受講できるe-learning（制作：日本協会）が開設。都合によって講習会に出席できない方が資格更新できる仕組みが完成し、実地研修と連動してスキルを高めました。



#### ◇走力会の実施（2007以降休止）

3級審判員が資格更新するために規定時間内(12分)に目標距離(2,200m)を走破できるかどうかを確認する「走力会」を実施し、審判員の体力向上、維持に努めました。

### 3. 審判派遣

市内の活動としては、プレジデンシャル杯への審判派遣、これまで相互審判をしていた1種リーグ戦およびカップ戦へも委員会から主審を派遣するなど、異種交流を深めた他、近隣都市協会主催大会への派遣、企業内親睦サッカー大会への派遣など、年々その活動を拡大しています。

### 4. 育成・強化

#### ◇昇級関連

##### ① 3級→2級

2010年、強化3級2名が昇級テストを受け、2級審判委員になりました。

##### ② 4級→3級

昇級者は年間5～7名程度となっています。2008年度から県協会主催による競技規則・走力テストを合格すれば認定される「資格認定制」となりました。そのため、昇級後即戦力となりえる人材に受講してもらうことが前提となり、都市協会内で計画的に育成・指導する方向に変わりました。



審判トレセン：1級インストから指導

#### ◇チーム審判員

U-15世代は新規資格取得者が年間に1チームにつき2名以上となるよう目標設定し、U-18世代では高体連を中心に精力的に取得・育成を行っています。4種ではコーチや保護者の取得も増加傾向にあり、1種においては1チームにつき3名以上の有資格者を義務付けるなど、4級審判員の増員・底辺拡大にあたりました。

#### ◇インストラクター活動

主に昇級者向けの個別指導や各種内での育成に努力しましたが、今後は組織強化を図り、協会内での育成制度の確立と派遣を行っていく必要があると考えます。

#### ◇トレーニングセンターの開催

新しい活動の一つとして、2010年7月に「審判トレーニングセンター」と称し、昇級を目指す審判員を中心に1・2級インストラクターから直接指導を受ける実技重視の研修会を開催しました。今後も県協会から指導を受け、毎年取り組んでいきます。

### 5. 情報公開と伝達（ホームページの開設）

2010年に公式サイトが開設され、今後の予定や活動報告、競技規則の改正等、審判に関する内容を掲載し、紙ベースの案内と並行しながら情報提供の充実を図りました。

### 6. 今後に向けて

審判委員会としての今後の課題・方針としまして、育成・強化に重点を置き、①若手審判員の育成②インストラクター活動の活性化③女性審判員の増員④上級審判員の輩出を目標として活動していきますので、他部門との連携を取りながら委員会メンバー相互協力のもと、明石サッカーの発展に寄与していきたいと思えます。

## 技術委員会

委員長 色川敏也

技術委員会は、明石市の1種（社会人）～4種（少年）の、各種の代表者で構成されています。人数は年毎に変化しますが、10名程度のメンバーで運営されています。技術委員会の活動は、主に三つに分けられます。

- (1) C級、D級コーチライセンスの取得に関する業務。
- (2) 2・3・4種の各年代のトレセンチームの育成。
- (3) トレセンフェスティバルの開催。

### 1. C級・D級コーチライセンスの取得

毎年、3期にわたって（受講生は1期を選択する。）行われるC級コーチ認定講習会に明石市協会として候補者を推薦しています。最近では明石市協会に選手、コーチ、監督登録をしている方に限るという制約が付きましましたので、講習会受講者が若干減っています。

D級コーチ講習会に関しては、以前は明石市協会ですべて開催していましたが、最近では東播協会と合同で行われており、受講者には交通面など不便な点もありますので、何とか単独で開催したいという働きかけをしていきたいと思っています。

### 2. 2・3・4種の各年代のトレセンチームの育成

トレセンの活動はU-10～U-17までの8チームで構成されています。4種では、トレセンの協会対抗リーグも始まっています。各カテゴリーの共通の問題としては、明石市のトレセンチームのレベルアップです。そのため、練習内容の工夫に取り組んだり、遠征機会を増やしたりしていますが、U-15を例に挙げると、2003年以降に県大会でベスト4に入っていないというのが現状です。

### 3. トレセンフェスティバルの開催

技術委員会の積年の夢がかない、平成20年より、明石市の少年から高校年代のトレセンチームの交流として、トレセンフェスティバルを開催することができました。【①明石サッカー界のレベルアップを目的とする。②ジュニア年代と次年代の優秀な選手の発掘と育成へのきっかけとする。③明石市の優秀な選手が一同に会し、試合を通して、交流を深めると共に互いの技術向上を目指す。④指導者相互の研鑽の場とする。】の4つを目的として実施しています。平成21年度は、平成22年3月20日(土)に兵庫県立明石南高等学校で、U-12対U-13、U-13対U-14、U-14対U-15、U-15対U-16の隣接年代の試合を実施しました。

時期や実施方法などの問題も多いですが、技術委員会の事業として継続していきたいと考えています。



## フットサル委員会

委員長 板倉達也

明石市サッカー協会におけるフットサル委員会の活動は、主に4種での活動が殆どで、残念ながら4種以外の活動は他地域協会に比べると遅れをとっている状況です。明石市内にフットサル施設がないことも大きな要因の一つで1種（成人）のフットサル愛好家達は、神戸市や三木市などに足を運び活動している状況でした。しかし、昨年度から明石市中央体育館でのフットサル競技が大人でも使用可能（以前は、少年のみ可能）となり、この体育館を活発に利用して、明石市でのフットサルの活動を活性化させたいと願っています。

又、フットサル競技の特徴として狭いプレーイングエリアでのボールテクニックやスピーディな展開などはサッカーにも充分に応用できるものなので、是非4種以外のチームにも積極的にフットサルの活動に参加して頂きたいと願っています。

### 主なフットサル大会

大会名	年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010
全日本フットサル選手権兵庫県大会（1種）		○	○	○	○	○	×
全日本ユース(U-15)フットサル大会（3種）		○	○	○	○	○	○
全日本少年フットサル大会（4種）		○	○	○	○	○	○
フットサルリーグ（4種）（明石市内限定）※		○	○	○	○	○	○

※県協会(JFA)とは関係なく明石市独自でフットサルに馴染んでもらう為に企画されたローカルリーグ戦（フットサル個人登録は不要）



2010年度全日本少年フットサル大会 明石市予選 優勝：人丸FC



## 規律・フェアプレー委員会

委員長 福田 哲平

規律・フェアプレーとは、サッカーに限らずスポーツ全般にかかわるキーワードであります。近年、オリンピックやアジア大会など、様々なスポーツでフェアプレーという言葉を目にするようになってきています。

サッカーではワールドカップをはじめとし、様々な場面でフェアプレーに関する問題が出てきたため、国際サッカー連盟（FIFA）は1997年に次のような10か条にわたる「サッカーの行動規範」（Football's code of conduct）を示しました。

- ① 勝つためにプレーしよう。
- ② 公正にプレーしよう。
- ③ ゲームのルール(the Laws)を遵守しよう。
- ④ 相手、仲間、審判、事務局、および観客を尊敬しよう。
- ⑤ 尊厳を持って敗北を受け入れよう。
- ⑥ フットボールへの関心を促進しよう。
- ⑦ 墮落、薬、人種的偏見、暴力およびその他の危険を拒絶しよう。
- ⑧ 不正への誘惑に対する抵抗を助けよう。
- ⑨ 我々のスポーツの信頼を損ねようとする者を非難しよう。
- ⑩ 我々のスポーツの評判を守る者を誇りにしよう。



日本サッカー協会（JFL）では、以下の4項目を基本としています。

### 1. ルールを正確に理解し、守る

フェアプレーの基本ルールをしっかりと知った上で、それを守ろうと努力することである。

### 2. ルールの精神：安全・公平・喜び

ルールは、自分も他人もけがをしないで安全にプレーできること、両チーム、選手に公平であること、みんなが楽しくプレーできることを意図して作られているのである。

### 3. レフェリーに敬意を払う

レフェリーは両チームがルールに従って公平に競技ができるために頼んだ人である。人間である以上ミスもするだろうが、最終判断を任せられた人なのだから、審判を信頼し、その判断を尊重しなければならない。

### 4. 相手に敬意を払う

相手チームの選手は「敵」ではない。サッカーを楽しむ大切な「仲間」である。仲間にけがをさせるようなプレーは絶対にしてはならないことである。



また、日本サッカー協会は2004年度から、『グリーンカード制度』を導入し、フェアプレー精神の向上を目指しています。

明石市サッカー協会規律・フェアプレー委員会としても、規律を重んじ、フェアプレー精神の向上を目指しています。その一つの取り組みとして、プレジデンシャル（会長杯）サッカー大会をはじめとして、各種でフェアプレーの向上に努めています。各大会、リーグ戦を通して、フェアプレーに適したチームにフェアプレートロフィーを授与しています。

そこから、改めてサッカーにとって大切なこと（姿勢や態度、マナー等）や人としての成長も願っています。

また、各種でもリーグ戦や大会において、フェアプレー旗の掲揚を行っています。トロフィー同様にサッカー仲間を尊重して、サッカーファミリーを育てていきたいと考えています。

年度	種類	プレジデンシャル	1種(社会)	2種(高校)	3種(中学)	4種(少年)
2003		人丸SC				
2004		魚住東中学校				
2005		王子SC				
2006		望海中学校		明石清水	高丘中学	高丘SC
2007		FC谷八木		明石高専		
2008		江井島中学校		明石商業	野々池中学	高丘SC
2009		錦浦SC		明石清水	大久保中学	
2010		花園FC				



2010年1月16日(土)・17日(日) 明石市子ども会サッカー大会(海浜公園)



## 広報委員会

委員長 塚本元恭

明石市サッカー協会の広報活動は、第2代理事長大黒氏がB4両面印刷の『明石のサッカー』を発行したのが出発点でした。しかし、明石市協会登録の全チーム、全選手への配布には限界があり、残念ながら3号で潰えてしまいました。

(社)兵庫県サッカー協会のオフィシャルサイトが2001年4月に開設され、その中に「13都市協会情報」のページも設けられました。明石市協会としても情報の集約・発信をするために溝口理事長(現会長)から「広報委員会」設置の案が出され、2002年に発足しました。発足当初の委員会は1~4種の4名だけで、技術委員会、審判委員会の代表は含まれていませんでした。暫定的に塚本が委員長になりましたが、設置準備の会議出席者が全種とも「代理出席」であったため、その後の連携がうまくとれず、形だけの委員会の状態が続きました。その中であっても(社)兵庫県サッカー協会オフィシャルサイト内「13都市協会情報」に各種の試合結果を掲載してもらうことは細々とではありますが続けていました。

2007年には兵庫県下13都市協会で、10協会がオフィシャルサイトを開設し、自前で情報の発信をするようになっていました。「明石協会にもオフィシャルサイトを!」の声が次第に常任理事会の席上でも聞かれるようになりました。そこで2008年度にホームページ開設担当として岩切氏(市内小学校教員・兵庫県協会オフィシャルサイト内「審判ルーム」の更新も担当)を迎え、委員長プラス各種の広報担当での計6名で委員会を構成しました。2009年度には次年度早々の開設にむけて1~4種だけでなく女子、技術、審判、規律・フェアプレー、フットサルからも広報担当者を新たに選任してもらい、合計11名の“新生”広報委員会に衣替えとなりました。年度途中ではありましたが、常任理事会において開設に関わる諸経費が特別会計からの支出を認められ、“明石市協会創立40周年の年に開設”に向けて一気に具体化することができました。

明石市協会創立40周年の年でもある2010年3月に“一応”はアップできました。しかし、内容は2009年度の協会役員や組織の概要だけで、この時点ではまだ試運転の状態でした。2010年6月26日 明石高専において広報委員のための「オフィシャルサイト更新講習会」を開催し、更新方法の伝達を行ってから本格運用にむけてスタートを切ることとなりました。規律・フェアプレー委員会の内容については当分の間審判委員会のページに同居することとしました。女子委員会については、現在明石市協会に登録チームはありませんが、将来を見越してページを独立して置くこととしました。

今後は明石市サッカー協会の各種・各委員会からの重要なお知らせや大会要項、試合結果などはオフィシャルサイトを見ればすべてわかるという存在にしていきたいと考えています。



### 明石市サッカー協会

<http://www.akashi-fa.com/index.html>



## 平成22年度 明石市サッカー協会

### 【登録チームと登録選手人数】

種 別	登録チーム	登録選手人数
1種 (社会人)	14	266
2種 (高校生)	8	340
3種 (中学生)	15	584
4種 (少 年)	24	714
5種 (女 子)	0	0
計	61	1904

### 【登録チーム一覧及び各委員会役員名簿】

- (1) 明石市サッカー協会役員
- (2) 1種 (社会人) 登録チーム一覧表
- (3) 2種 (高校生) 登録チーム一覧表
- (4) 3種 (中学生) 登録チーム一覧表
- (5) 4種 (少 年) 登録チーム一覧表
- (6) 審判委員会
- (7) 技術委員会
- (8) フットサル委員会
- (9) 規律フェアプレイ委員会
- (10) 広報委員会



## (2) 1種 (社会人) 登録チーム

No.	チ ャ ム 名	登録人数	代 表 者 氏 名
1	明 石 F C	26	三 阪 公 郎
2	高 丘 F C	17	高 橋 尚 弥
3	F C M E I N A N	21	清 水 悟
4	二見フットボールクラブ	14	大 西 浩 史
5	FC LADYGO+F (B)	21	村 上 雄 哉
6	キャタピラジャパンサッカー部	24	内 田 拓 也
7	FC LADYGO+F (A)	21	深 瀬 司 朗
8	城 西 F C	11	野 上 貴 史
9	望 海 F C	26	重 忠 憲
10	C A S S I N I F C	19	小 原 啓 史
11	F C E A S Y ' 0 2	20	船 橋 了
12	S h i r y u ' s F C	17	浅 田 士 里 有
13	チ ャ ム マ ッ	15	松 岡 裕 明
14	ア ル テ ィ メ ッ ト	14	中 川 祐 樹
	計	266	

## (3) 2種 (高校) 登録チーム

No.	チ ャ ム 名	登録人数	代 表 者 氏 名
1	明 石 高 校	37	土 居 浩 子
2	明 石 南 高 校	46	横 田 滋
3	明 石 西 高 校	40	杉 本 嘉 良
4	明 石 北 高 校	59	石 原 文 人
5	明 石 城 西 高 校	70	田 中 聡 一
6	明 石 商 業 高 校	38	田 村 孝 次
7	明 石 清 水 高 校	32	小 林 憲 幸
8	明 石 高 専	18	加 藤 隆 弘
	計	340	

## (4) 3種 (中学生) 登録チーム

No.	チ ャ ム 名	登録人数	代 表 者 氏 名
1	朝 霧 中 学 校	25	河 田 武 志
2	大 蔵 中 学 校	39	原 怜 司
3	衣 川 中 学 校	42	社 浦 恒 太
4	望 海 中 学 校	40	森 淳
5	野々池中中学校	50	藤 本 憲 幸
6	大久保中中学校	34	山 根 洋 司
7	大久保北中学校	38	野 呂 英 昭
8	高 丘 中 学 校	77	赤 枝 康 隆
9	江 井 島 中 学 校	19	永 海 亮
10	魚 住 中 学 校	47	米 澤 真 司
11	魚 住 東 中 学 校	66	宮 崎 大 志
12	二 見 中 学 校	46	高 橋 稔
13	リベルタ明石	27	姫 野 貴 之
14	F C エ ス ポ ル ト	17	近 藤 雄 介
15	明 石 学 園	17	手 島 教 介
	計	584	





## (5) 4種 (少年) 登録チーム

No.	チ ャ ム 名	登録人数	代 表 者 氏 名
1	鳥 羽 F C	16	石 原 俊 之
2	明 石 少 年 F C	13	北 村 弘 孝
3	明 石 F C	52	佐 野 淳 一
4	江 井 島 イ レ ブ ン	46	菊 池 恵 造
5	や ま て S C	43	藤 井 栄 之 助
6	貴 崎 S C	16	片 山 雅 夫
7	林 少 年 S C	19	藤 原 孝 之
8	高 丘 S C	47	板 倉 達 也
9	錦 浦 S C	42	細 川 貴 史
10	沢 池 S C	33	石 垣 章
11	和 坂 S C	19	藤 田 智 孝
12	大 久 保 S C	31	西 村 智 博
13	王 子 S C	11	佐 渡 友 誠
14	藤 江 K S C	20	小 蘭 秀 明
15	F C 谷 八 木	18	石 田 誠
16	花 園 S C	19	小 林 徹
17	人 丸 S C	35	早 田 由 紀 夫
18	錦 が 丘 ウ イ ン グ ス	22	岩 下 健 二
19	魚 住 U F C	27	前 田 浩
20	二 見 西 F C	31	富 安 好 美
21	エ ス ペ ラ ン サ F C	43	山 根 則 義
22	清 水 S C	45	伊 澤 毅
23	二 見 北 S C	42	藤 原 嗣 久
24	中 崎 S C	24	中 山 勝 博
	計	714	

## (6) 審判委員会

No.	役 職	代 表 者 氏 名
1	委 員 長 (兼1種委員)	神 田 哲 也
2	副 委 員 長 (総務部)	石 垣 章
3	副 委 員 長 (インストラクター部)	中 田 英 男
4	会 計 (インストラクター部)	塚 本 元 恭
5	総 務 部 長	橘 勝
6	インストラクター部長	坂 根 克 己
7	フットサル部長 (総務部)	高 森 輝 雄
8	2 種 委 員 (総務部)	小 林 憲 章
9	3 種 委 員 (総務部)	森 淳
10	4 種 委 員 (インストラクター部)	妻 鳥 幸 正
11	女 子 委 員 (総務部)	山 口 幸 男
12	委 員 (インストラクター部)	高 橋 郁 夫
13	委 員 (インストラクター部)	早 川 嘉 信
14	委 員 (インストラクター部)	中 村 正 光
15	委 員 (総務部)	米 澤 真 司
16	委 員 (総務部)	細 川 貴 史
17	委 員 (総務部)	野 上 貴 史
18	委 員 (総務部)	赤 枝 康 隆

### (7) 技術委員会

No.	役 職	代 表 者 氏 名
1	委 員 長	色 川 敏 也
2	副 委 員 長(4種)	伍 賀 裕 一 郎
3	副 委 員 長(3種)	野 呂 英 昭
4	1 種 委 員	長 井 正 明
5	2 種 委 員	横 田 滋
6	3 種 委 員	姫 野 貴 之

### (8) フットサル委員会

No.	役 職	代 表 者 氏 名
1	委 員 長	板 倉 達 也
2	1 種 委 員	高 橋 稔
3	2 種 委 員	加 藤 隆 弘
4	3 種 委 員	近 藤 雄 介
5	4 種 委 員	早 田 由 紀 夫
6	4 種 委 員	高 森 輝 雄

### (9) 規律フェアプレイ委員会

No.	役 職	代 表 者 氏 名
1	委 員 長	福 田 哲 平
2	副 委 員 長	高 橋 郁 夫
3	1 種 委 員	大 西 浩 史
4	2 種 委 員	吉 川 昇
5	3 種 委 員	塚 本 元 恭
6	4 種 委 員	石 原 俊 之
7	4 種 委 員	早 川 嘉 信
8	女 子 委 員	山 口 幸 男

### (10) 広報委員会

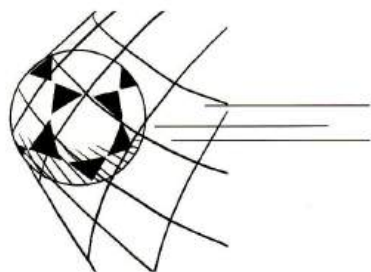
No.	役 職	代 表 者 氏 名
1	委 員 長	塚 本 元 恭
2	オフィシャルサイト統括	岩 切 昭 光
3	1 種 委 員	村 上 雄 哉
4	2 種 委 員	加 藤 隆 弘
5	3 種 委 員	姫 野 貴 之
6	4 種 委 員	藤 本 将 喜
7	女 子 委 員	山 口 幸 男
8	審 判 委 員	神 田 哲 也
9	技 術 委 員	坂 井 成 夫
10	フットサル委員	板 倉 達 也
11	規律フェアプレー委員	福 田 哲 平





(1) 明石市サッカー協会役員

役 職	氏 名
会 長	溝 口 薫
副 会 長	市 川 克 己
理 事 長	岡 本 常 司
副 理 事 長	藤 家 幹 雄
会 計	日 高 修
総 務 委 員 長	高 橋 郁 夫
審 判 委 員 長	神 田 哲 也
審 判 副 委 員 長	石 垣 章
技 術 委 員 長	色 川 敏 也
技 術 副 委 員 長	伍 賀 裕 一 郎
規律フェアプレイ委員長	福 田 哲 平
フットサル委員長	板 倉 達 也
広 報 委 員 長	塚 本 元 恭
1 種 委 員 長	三 阪 公 郎
1 種 副 委 員 長	深 瀬 司 朗
2 種 委 員 長	田 村 孝 次
2 種 副 委 員 長	加 藤 隆 弘
3 種 委 員 長	米 村 貴 之
3 種 副 委 員 長	河 田 武 志
4 種 委 員 長	堂 本 昌 稔
4 種 副 委 員 長	藤 井 栄 之 助
女 子 委 員 長	山 口 幸 男
会 計 監 査	北 出 伸 明
顧 問	山 崎 雄 史



# 明石市サッカー協会規約

## 第1章 名称と組織

- 第1条 本会は、明石市サッカー協会とする。
- 第2条 本会の事務局を、明石市鳥羽208番地に置く。
- 第3条 本会は、明石市内に居住または勤務するサッカー同好者、会長・理事長の推薦による者で組織する。
- 第4条 本会は、次の委員会を置く。
- 1、第1種（社会人）委員会
  - 2、第2種（高校生）委員会
  - 3、第3種（中学生）委員会
  - 4、第4種（少年）委員会
  - 5、第5種（女子）委員会
  - 6、技術委員会
  - 7、審判委員会
  - 8、規律フェアプレイ委員会
  - 9、フットサル委員会
  - 10、広報委員会
- 第5条 本会の運営については、理事長の指示のもと各委員会及び委員が協力してその任にあたる。

## 第2章 目的及び事業

- 第6条 本会は、明石市内の学校や一般市民及びその近郊の人々に、健全なサッカーの発展を図ることを目的とする。
- 第7条 本会は、前条の目的の達成のために次の事業を行う。
- 1、サッカーの指導奨励と指導者の養成
  - 2、競技会・講演会などサッカーに関する各種行事の実施
  - 3、その他、理事会の決定に基づく行事

## 第3章 役員

- 第8条 本会は、次の役員を置く。
- |       |               |
|-------|---------------|
| 会 長   | 1名            |
| 副 会 長 | 1名（必要に応じ選任する） |
| 理 事 長 | 1名            |
| 副理事長  | 1名            |
| 常任理事  | 若干名           |
| 総 務   | 1名            |
| 会 計   | 1名            |
| 会計監査  | 1名            |
- 本会には顧問若干名を置くことができる。
- 第9条 会長及び副会長は理事会において決める。  
会長は本会を代表し、会務を統理する。  
理事長は会長を補佐し、会長事故あるときは職務を代行する。
- 第10条 理事長及び常任理事は理事の互選によって決める。  
理事長は会長の命を受けて会務を処理し、業務の運営に当たる。  
常任理事は理事長の命を受けて会務を処理し、業務の運営に責任を持って協力する。



- 第11条 理事は協会に登録した各チームの代表者とする
- 第12条 会計は会長がこれを委嘱する。会計は会計を担当する。
- 第13条 会計監査は会長がこれを委嘱する。会計監査は本会の会計を監査する。
- 第14条 顧問は常任理事の承認を経て、会長がこれを委嘱することができる。  
顧問は会長の諮問に応じ、本会の会務に参画する。
- 第15条 役員任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。  
役員任期は前任者の残存期間とし、増員による役員任期は他の役員残存期間とする。
- 第16条 罰則  
役員で社会的道義的に人格を失う行為をなしたる者は常任理事会にはかり、解任することができる。

#### 第4章 会 議

- 第17条 理事会は、会長、副会長、理事長、副理事長、常任理事、会計、会計監査及び理事で組織する。理事会は主たる会務を審議する。  
常任理事会は、会長、副会長、理事長、副理事長、常任理事及び会計で組織する。常任理事会は、本会の常務を掌握すると共に、理事会から上申された事項について審議執行する。  
理事会及び常任理事会は、必要に応じて会長の命により理事長が召集し、これを統裁し、議事は多数決による。

#### 第5章 財 務

- 第18条 本会の会費は次の掲げるもので充てる。  
1、会費  
2、市、又は公共団体から交付された補助金  
3、寄付金  
4、その他
- 第19条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年の3月31日に終わる。
- 第20条 本会の会計は、年度末の会計監査に報告し、会計監査は会長に報告と承認を受ける。

#### 第6章 附 則

- 第21条 本会の規約は理事会において出席者（委任状を含む）の3分の2以上の同意がなければ変更することができない。  
ただし、常任理事会にての決定事項は、これを優先する。
- 第22条 本会規約は平成20年5月30日より有効とする。
- 第23条 本会規約の一部改正についての記録を下記に記す。  
昭和45年4月 ( 会長)  
昭和46年4月 (堂本会長)  
昭和53年4月 1日 一部改正  
昭和62年6月27日 一部改正 (主たるもの 委員会に第5種を追加)  
平成 9年6月12日 一部改正 (主たるもの 委員会に規律フェアプレイ委員会、フットサル委員会を追加)  
平成11年6月 5日 一部改正 (主たるもの 会計を追加)  
平成17年7月23日 一部改正 (事務局)  
平成20年5月30日 一部改正 (事務局)

## 編集後記

県内の各都市サッカー協会からは、法人化や天然芝・人工芝グラウンドの話題が盛んに聞かれるようになり、少なからず焦りも感じていました。しかし、今回この40周年記念誌の編集に携わり明石市サッカー協会の10年を振り返ると、兵庫県サッカー協会をはじめ、明石市内の多くの団体の方々にお世話になりながら、歩みは遅いながら着実に歩を進めていることを感じました。これからも足を地につけてじっくりと、明石市サッカー協会のペースで、スポーツを、サッカーを、もっともっと発展させていきたいものです。

小誌編集にあたり、御協力御支援下さいました方々には、心より厚く御礼申し上げますと共に、今後共、御指導御鞭撻をお願い申し上げます。

---

### 明石市サッカー協会 創立40周年記念誌

発行日 2011年3月  
発行者 明石市サッカー協会  
編集者 明石市サッカー協会 常任理事会  
担当 岡本常司・藤家幹雄・高橋郁夫

---





**明石市サッカー協会**

